



Title	Development of a rating scale for maladaptive symptoms by maltreatment: Perspectives of attachment and dissociation
Author(s)	堀内, 愛佳
Citation	大阪大学, 2024, 博士論文
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/98627">https://doi.org/10.18910/98627</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

論文内容の要旨

氏 名 （ 堀 内 愛 佳 ）	
論文題名	Development of a rating scale for maladaptive symptoms by maltreatment: Perspectives of attachment and dissociation  (RS-MSM尺度の開発：愛着と解離の視点からの他者評価尺度)
<p>論文内容の要旨</p> <p>マルトリートメントを受けた児童の行動は神経発達症と判別が難しく、マルトリートメントが背景にある環境で育った子どもは、脳の構造的・機能的な変化が見られ（友田，2009）、神経発達症に類似した行動問題を呈する子どもがいる（Van der Kolk, 2005）。被虐待児の行動は神経発達障害と混同されることがあり、虐待を受けた子ども達の問題行動に対しては、神経発達症に対する支援だけでは十分な効果が得られない（Schwartz &amp; Davis, 2006）。そこで、マルトリートメントによる問題行動を特定するための専門的なツールと、子どもの不適応症状への早期支援が極めて重要である。</p> <p>本研究では、虐待に関連した不適応症状に対し、他者評価によって客観的に評価を行うスクリーニング尺度（Rating Scale for Maladaptive Symptoms due to Maltreatment；RS-MSM）の開発を目的とした2つの調査研究を実施した。</p> <p>調査1では、被虐待歴のある児童養護施設入所児童60名（被マルトリートメント群）と被虐待の報告がない小学校に通う児童154人（対照群）の行動について、愛着と解離に関する40項目の質問に施設職員と担任教師が回答を依頼した。</p> <p>探索的因子分析の結果に基づいて、マルトリートメントによる不適応症状に対する2因子20項目の評価尺度（RS-MSM）が作成された。さらにROC曲線を作成し、最適なカットオフ値を決定した。</p> <p>調査2では、被マルトリートメント群39人と対照群186名の小学生に関して調査1で作成したRS-MSM尺度を用いて同様の評価者と手順で行動評価を依頼し、回答結果を基に確認的因子分析を実施した。</p> <p>その結果から、調査1で設定されたカットオフ値が一般集団および臨床域の小児のスクリーニングに適切であることが示され、RS-MSMの信頼性と収束妥当性が確認された。</p> <p>本研究で開発したRS-MSMの活用により、不適応行動問題を抱える子どもを支援する大人が、日常的な行動から子どもをアセスメントし、マルトリートメントの有無を特定することが可能となり必要な医療・福祉支援につなげることが期待される。</p>	

論文審査の結果の要旨及び担当者

氏 名 （ 堀 内 愛 佳 ）		
	（職）	氏 名
論文審査担当者	主 査	教授 友田 明美
	副 査	教授 大溪 俊幸
	副 査	准教授 藤野 陽生
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>【目的】</p> <p>マルトリートメントを受けた児童の行動は神経発達症と判別が難しく、マルトリートメントが背景にある環境で育った子どもは、脳の構造的・機能的な変化が見られ（Tomoda, 2024）、神経発達症に類似した行動問題を呈する子どもがいる（Van der Kolk, 2005）。被虐待児の行動は神経発達障害と混同されることがあり、虐待を受けた子ども達の問題行動に対しては、神経発達症に対する支援だけでは十分な効果が得られない（Schwartz &amp; Davis, 2006）。そこで、マルトリートメントによる問題行動を特定するための専門的なツールと、子どもの不適応症状への早期支援が極めて重要である。本研究では、虐待に関連した不適応症状に対し、他者評価によって客観的に評価を行うスクリーニング尺度（Rating Scale for Maladaptive Symptoms due to Maltreatment；RS-MSM）の開発を目的とした2つの調査研究を実施した。</p> <p>【方法】</p> <p>調査1では、臨床現場で被マルトリートメント児を特定するための評価尺度（Rating Scale for Maladaptive Symptoms due to Maltreatment；RS-MSM）の作成と質問項目の確定を行った。虐待を受けた理由で児童養護施設に入所中の児童60名（被マルトリート群）と、被虐待の報告がない小学校児童154人（対照群）の行動について、愛着障害と解離障害の症状を評価した。愛着障害の評価には、Attachment Disorder Assessment Scale Revised（ADAS-R；Zieger, 2006）の質問項目を元に日本の教育環境に沿った17項目を選択し、さらに愛着障害の判別項目「場面对応」「対人関係性のコントロール」「行動特徴の日内変動」の3項目を加えた合計20項目を使用した。解離障害の評価には、子ども版他者評価解離尺度（Child Dissociative Checklist）20項目を使用した。被マルトリートメント群については、施設職員が評価を行い、対照群の子どもについては担任教師が評価を行った。回答結果から、探索的因子分析やモデル適合度の評価、信頼性と収束的妥当性の評価を行い、ROC 曲線を作成してカットオフ値を決定した。調査2では、調査1で作成したRS-MSM 質問紙を同様の方法で児童養護施設と小学校で調査した。確認的因子分析を行い、因子構造の確認、信頼性、妥当性を検証した。また、Composite Reliability(CR)、Average Variance Extracted (AVE)、Cronbach <math>\alpha</math> を算出し、ROC 曲線を作成して一般スクリーニング値と臨床域値のカットオフ値を確認した。</p> <p>【結果】</p> <p>調査1では、探索的因子分析の結果に基づいて、2 因子 20 項目からなる他者評価によるマルトリートメント症状スクリーニング尺度（RS-MSM）を開発した。このRS-MSM尺度は2 因子構造で、信頼性、収束妥当性が確認された。尺度の第1因子は「社会的／対人的問題と解離」、第2因子は「非行／攻撃的行動」で、どちらも複雑性 PTSD の診断基準に含まれ、子どもの不適応行動を確認に重要であることが示された。</p> <p>調査2では、調査1と同様の方法で児童養護施設と小学校でRS-MSMを実施した。因子構造の確認、信頼性、妥当性の検証、および確認的因子分析を行った結果、RS-MSMの信頼性と収束妥当性が十分であることが確認された。ROC 分析では非常に高い AUC（0.96）が得られた。カットオフ値は一般スクリーニングで2点(感度94.9%、特異度85.5%)、臨床域で5点(感度84.6%、特異度95.1%)であった。本研究で開発したRS-MSMの活用により、不適応行動問題を抱える子どもの日常的な行動からマルトリートメントの有無を特定することが可能となった。</p> <p>以上の結果から、本論文は博士（小児発達学）の学位に値するものと認める。</p>		